

## Q7~18【校内体制】の キーポイントをまとめると…!



教職員集団の力（チームワーク）を発揮して

教職員集団の力が発揮されるにはどうしたらいいでしょうか。

ある学校ではADHDのある子どもが入学するに当たり、「よいところを見つけて褒めよう」と決め、しかも全教職員が実践しました。その姿勢は一人の子どもから全ての子どもへと向けられていき、保護者に「最近、学校が変わった。先生方が子どもをよく褒めてくれるようになった。学校全体が温かい雰囲気になった」と言われるようになりました。

日々の忙しい時間の中では難しいことですが、学校長のリーダーシップにより「何を大切にするのか」を全員で共通理解し、その理解の下に一致団結した行動を起こせば、期待していた以上の効果が表れてくるという例だと考えます。

### 試行錯誤とアイデア勝負

「こんな時どうすればいいのか」と困ったとき、成功したやり方だけをまねてみても解決しないことがよくあります。それは一人一人の子どもの実態が大きく異なるからです。様子を見ながらいろいろ対応してみないと、その子への適切な支援方法はわかりません。本手引書もヒントや基になる考え方を示しているに過ぎません。試行錯誤の中から生まれてくる「工夫とアイデア」こそが命なのです。

また、子どもたちへの対応で「完璧でなければならない」「こんなやり方は聞いたことがない」と自分を追い込んだり、発想を狭めたりしていることはないでしょうか。完璧であるに越したことはありませんが、失敗を恐れて手をこまねいているよりも、失敗を乗り越え、忍耐強く取り組んでいくことのほうが大切です。更に、新しいニーズが生まれてきた時には、既存のやり方にこだわらない柔軟な発想が求められます。

そのためにも、みんなの手、みんなの目が何よりも必要なのです。